

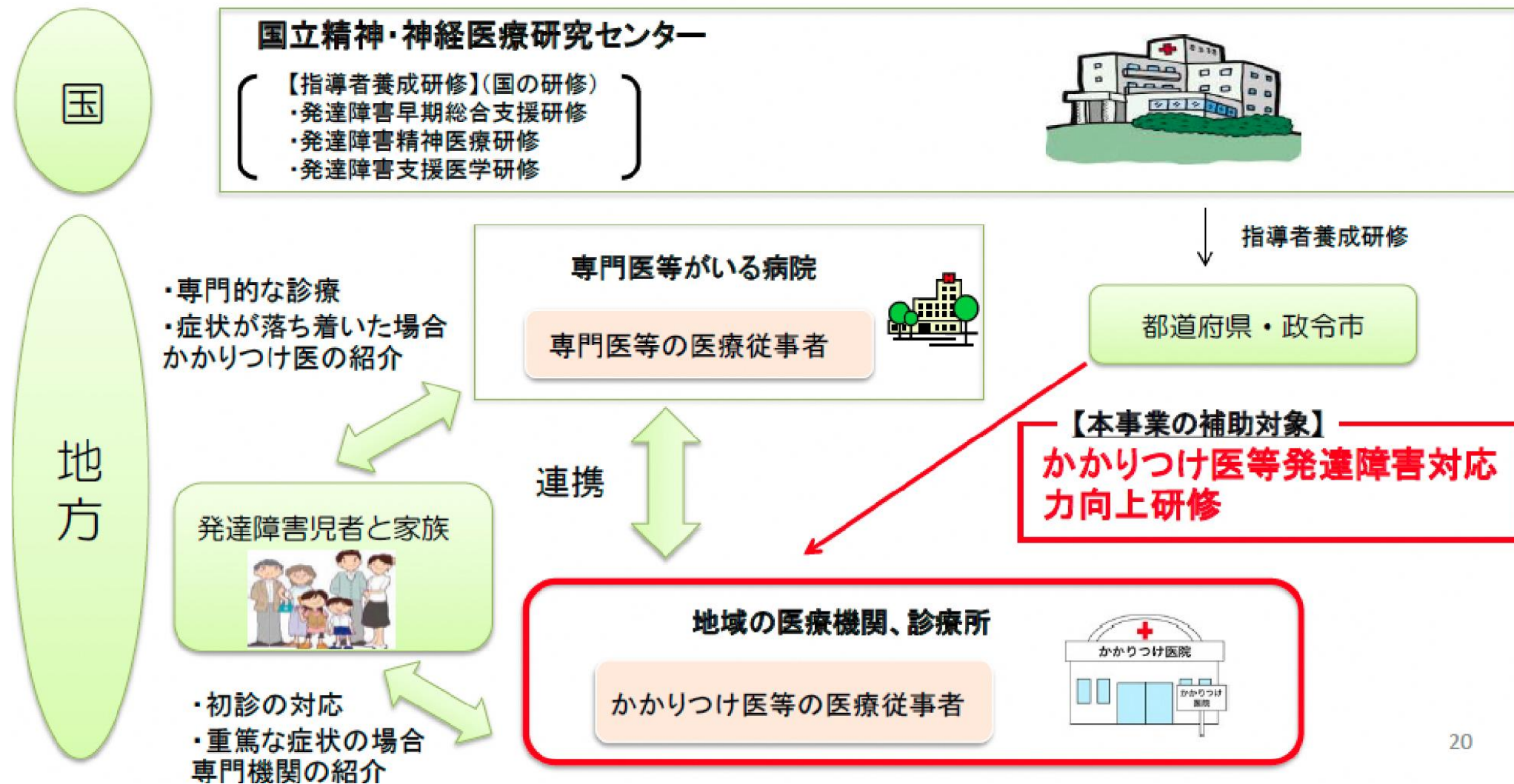
かかりつけ医等発達障害 対応力向上研修（報告）

かかりつけ医等発達障害対応力向上研修事業

令和元年度予算

地域生活支援促進事業21,495千円(21,495千円)

かかりつけ医等発達障害対応力向上研修事業は、発達障害における早期発見・早期支援の重要性に鑑み、最初に相談を受け、又は診療することの多い小児科医などのかかりつけ医等の医療従事者に対して、発達障害に関する国の研修内容を踏まえた対応力向上研修を実施し、どの地域においても一定水準の発達障害の診療、対応を可能とし、早期発見・早期支援の推進を図る。



発達障害の早期発見に関する市町村及び都道府県の体制整備について

■発達障害者支援法 第5条

1 市町村は、母子保健法(昭和40年法律第141号)第12条及び第13条に規定する健康診査を行うに当たり、発達障害の早期発見に十分留意しなければならない。

5 都道府県は、市町村の求めに応じ、児童の発達障害の早期発見に関する技術的事項についての指導、助言その他の市町村に対する必要な技術的援助を行うものとする。



■障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業

・市町村事業(任意)「巡回支援専門員整備」

発達障害者支援に関するアセスメント手法についての知識と技術を持った専門員が、保育所等の子どもやその親が集まる施設・場に巡回支援を実施し、障害が“気になる”段階から支援を行うための体制の整備を図る。

・都道府県事業(任意)「発達障害者支援体制整備」

①発達障害地域支援マネジャーは、アセスメントツールの導入など市町村の支援体制の整備に必要な相談、助言等を行う。

②発達障害の支援の尺度となるアセスメントツールの導入を促進するための研修を実施する。

先進的なアセスメントツールの例

M-CHAT(1歳6か月健診で使用可能)

Modified - **C**hecklist for **A**utism in **T**oddlers

(乳幼児期自閉症チェックリスト修正版)

- ・対象:16~30か月の幼児
- ・方法:養育者が質問紙に記入する
- ・目的:社会性の発達状況の確認、自閉症スペクトラムの可能性について把握する
- ・研修:発達障害早期総合支援研修(国立精神・神経医療研究センターにおいて実施)

PARS-TR(3歳児健診以降で使用可能)

Parent-interview **A**SD **R**ating **S**cales - **T**ext **R**evision

(親面接式自閉スペクトラム症評価尺度テキスト改訂版)

- ・対象:3歳以上の児者
- ・方法:専門家が養育者へのインタビューを行う
- ・目的:幼児期から成人期まで、自閉症スペクトラムの行動特徴の有無を継続的に把握する
- ・研修:発達障害者支援者研修会(国立障害者リハビリテーションセンターにおいて実施)

第27回発達障害支援医学研修より

顕在化しにくい発達障害の特性を早期に抽出するアセスメントツール（CLASP）とその活用マニュアルの目次

子どもの様子に関する観望シート

子ども 氏名： 性別： 男・女 年齢： 歳 ヶ月

②上下の▼▲にあわせて、裏面に向かって折ります。裏面に説明が記載されています

中末起り

もっともあてはまる欄に☑チェックしてください

全く ない	ごく まれ にある	時々 ある	しば しば ある	常に ある
----------	-----------------	----------	----------------	----------

[illegible]

吃音症

くせ	1年前から現在までに、顔面や頸部の繰り返す動きのくせ				
5	(例: まばたき、顔のくせ、口まわりのくせ)	☐	☐	☐	☐
6	1年前から現在までに、口の繰り返す動きのくせ	☐	☐	☐	☐
7	1年前から現在までに、舌の繰り返す動きのくせ	☐	☐	☐	☐
8	1年前から現在までに、首の繰り返す動きのくせ	☐	☐	☐	☐
9	1年前から現在までに、声の繰り返す動きのくせ	☐	☐	☐	☐
10	文字を読むことに関心がない (例: 絵本の絵を見るだけで、文字を読もうとしたり、何と書いてあるか聞かない)	☐	☐	☐	☐

チック症

	単語の発音を正確に言えないことがある (例: 「いすいしゅ」という妙な発音)					
読み書き	11 音ではなく「マス」のよう					
	12 自分の名					
	13 歌の歌詞を覚えることに苦労をする (歌詞を理解する/しないに関わらず)					
	14 文字や文字らしきものを書きたがらない、書くことに関心がない					

読み書き障害

15	他の子と比べて、走り方がぎこちない、あるいは不自然である（例：膝が伸びきっていたり、手足が運動せずにばらばらになるなど）	☐	☐	☐	☐
16	遊具やブロック遊びなど、身体を使う遊びで、うまく身体を動かしたり、スムーズに遊ぶのを進めかねて出来ない（例：ジャンプマットや縄跳び、滑輪、平地台を使った遊びなど）	☐	☐	☐	☐
17	動きなど、	☐	☐	☐	☐

発達性協調運動障害

発達性協調運動障害

18 お絵かきや塗り絵の時に、何を描いたか大人に伝わらない（独断的という
意味ではなく、「ぐちゃぐちゃ」で伝わらない） ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

19 長い時間座るときに、疲れやすく、姿勢が崩れたり、椅子からずり落ちた
りする（体がぐく、身体がぐにゃぐにゃとなるなど。但し、集中が壊れず、厳格な
場面などは除く。） ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

記入日： 年 月 日 記入者：

— 目次 —

はじめに

観察シート (GLASP)

I. 説明：保育士・教諭の方へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

全体的な説明、概要と特徴、付け方と結果の見方、園での関わり方

話し方の4項目、くせの5項目、読み書きの5項目、運動の5項目

(1) 説明と付け方

(2) 図での関わり方

Ⅱ. 活用手順：巡回相談に携わる方へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

話し方の4項目、くせの5項目、読み書きの5項目、運動の5項目

(1) 子どもの観望ポイント

(2) 保護者向けの問診・相談ポイント

(3) 関わり方の助言集

(4) 相読先候補リスト

III. 顧在化しにくい発達障害：解説編 39

(1) 吃音

(2) チック症

(3) 限局性學習症

(4) 癱瘓性協調運動症

IV. 研究成果のまとめ 89

(1) 厚生労働科学研究費補助金「顕在化しにくい発達障害の特性を早期に抽出する

アセスメントツールの開発および普及に関する研究」平成 28-29 年度総合研究

報告書 概要版

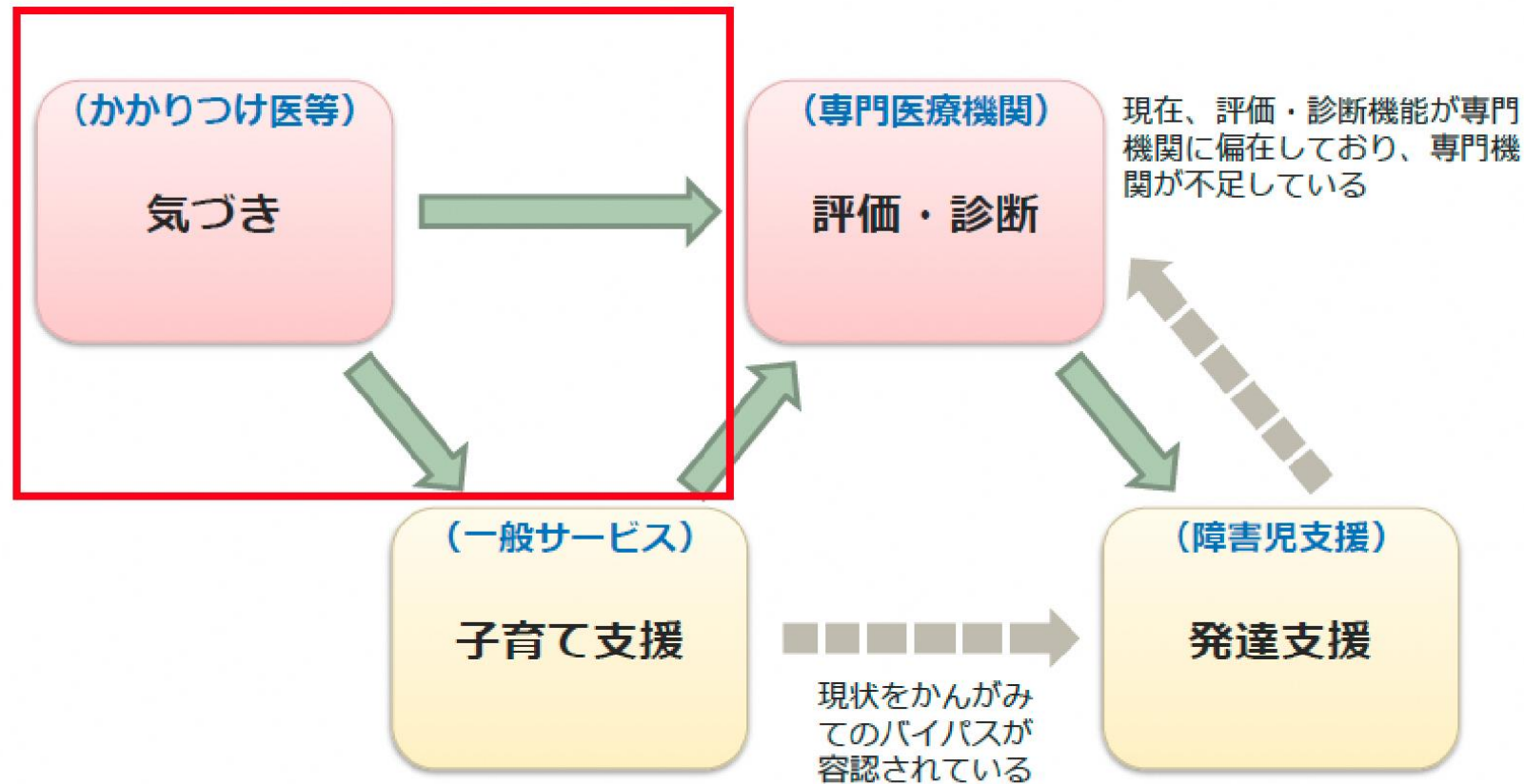
(2) 観察シートの評価者間信頼性と簡便性の検討

V. 調查協力機關・施設名 96

・厚生労働科学研究費補助金事業「顕在化しにくい発達障害の特性を早期に抽出するアセスメントツールの開発および普及に関する研究」(2016年度~2017年度)

・厚生労働省障害者総合福祉推進事業「発達障害の読み書き障害、チック、吃音、不器用の特性に気づくチェックリスト活用マニュアルの作成に関する調査」(2018年度)

気づきから評価と支援へ

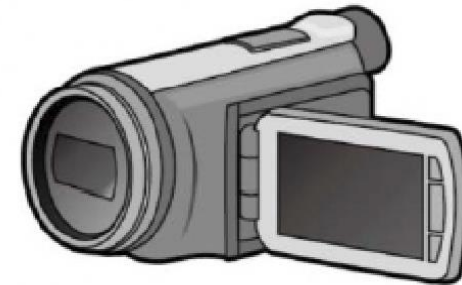


第14回 発達
障害地域包
括支援研修
(早期支援)
より

ビデオ映像の視聴

2歳前後の定型発達児とASD児が示す
対人コミュニケーション行動をいくつか見てみましょう

- (# 6) 要求の指さし
- (#13) 模倣
- (# 5) ふり遊び
- (#15) 指さし追従
- (# 9) 興味あるものを見せる
- (# 7) 興味の指さし
- (#17) 視線追従



第14回 発達
障害地域包
括支援研修
(早期支援)
より

録音・録画は禁止

1 さっぽろ子どもの心の診療ネットワーク事業の事業概要

「さっぽろ子どもの心の診療ネットワーク事業」は、以下の2つの事業の実施により、児童精神科医療を中心とした関係各機関のネットワークを構築・運用し、札幌市全体において、心の悩みを抱える子どもや発達障がいのある子どもへの支援体制の向上を目指す事業です。（平成27年10月19日事業開始）

さっぽろ 子どものこころの連携チーム事業

北海道大学大学院医学研究科（児童思春期精神医学講座）と札幌市が共同で行います。

- 関係機関の代表者からなる連携チームを構成し、連絡会議を開催します。
- ネットワークを構成する関係機関を対象とした研修会等を実施します。
- ネットワークを構成する関係機関に医学的見地からの助言等を行います。
- 右記コンシェルジュ事業を総括し、コンシェルジュ実施機関の支援を行います。

さっぽろ 子どものこころのコンシェルジュ事業

市内5カ所の医療機関が札幌市からの委託等により行います。
（利用はあくまでも任意であり、本事業を経由しない医療機関の受診や紹介等を妨げるものではありません。）

- ネットワークを構成する関係機関や市民からの依頼により、関係機関や本人の希望も考慮しながら、より適切な児童精神科医療を扱う医療機関をご案内します。
- 児童精神科を扱う医療機関からの依頼により、一般の小児科や精神科の医療機関や教育・福祉等、より適切な支援機関をご案内します。

第12回 発達障害地域包括支援研修（精神保健・精神医療）より

②-2 より良い療育体制の構築 受診紹介票の導入

当初は待機期間を短縮する目的で優先順位をつける仕組みを検討したが、
地域で支援が開始(診断前支援が開始)されているケースから受け入れる方針を決め、
診療本人家族からの直接予約ではなく、
学校や保育所、児童発達支援事業所など支援者からの予約に統一した。

診断前支援の仕組みが構築され待機期間の有効活用と地域の受け皿、支援体制づくり
保護者が診断を聞く心構えを作る時間となり保護者の不安軽減にもつながる。

特に、療育センターに所属する教員が地域の学校との連携に重要な役割をはたしている。

診断閾下のニーズ増大に合わせ地域の支援力アップにも貢献すると思われる。



①早期気づきと早期支援	
②より良い療育体制の構築	
③こども総合療育センターのケースワーカーからの情報提供	
④より実践的な研修(行動観察から学ぶ)	
⑤教育との連携	
⑥医療との連携	
⑦その他	

第12回 発
達障害地域
包括支援研
修(精神保
健・精神医
療)より

かかりつけ医へのメッセージ

-ASDの人の健康管理にむけて-

- ASDの人には様々な身体的併存症がみられ医療支援ニーズが高い
- 発達障害特性(コミュニケーションや感覚の問題) のために身体疾患の診断や治療が遅れやすい
- 個々の障害特性を考慮した対応が医療機関でまだ十分浸透しておらず、当事者・家族が医療機関受診に対する不安を抱えておられます
- 発達障害特性を考慮した具体的な対応を出来る範囲で取り組むことがかかりつけ医に期待されています
- かかりつけ医による身体的併存症への対応は、発達障害の人のQOL向上や発達障害と鑑別を要する疾病の除外にも重要となります

第12回 発達障害地域包括支援研修(精神保健・精神医療)より

自治体での取り組み①(千葉県市川市)

知的障害やASDの人のスムーズな医療機関への受診に向けて

「説明カード」

- ✓ 親の会を通して障害児者に配布
 - ✓ 診療前に必要事項（障害の特徴や特性と、簡単な対応方法）を記入
- 診察がスムーズに受けられるように作成

「待合室ポスター」

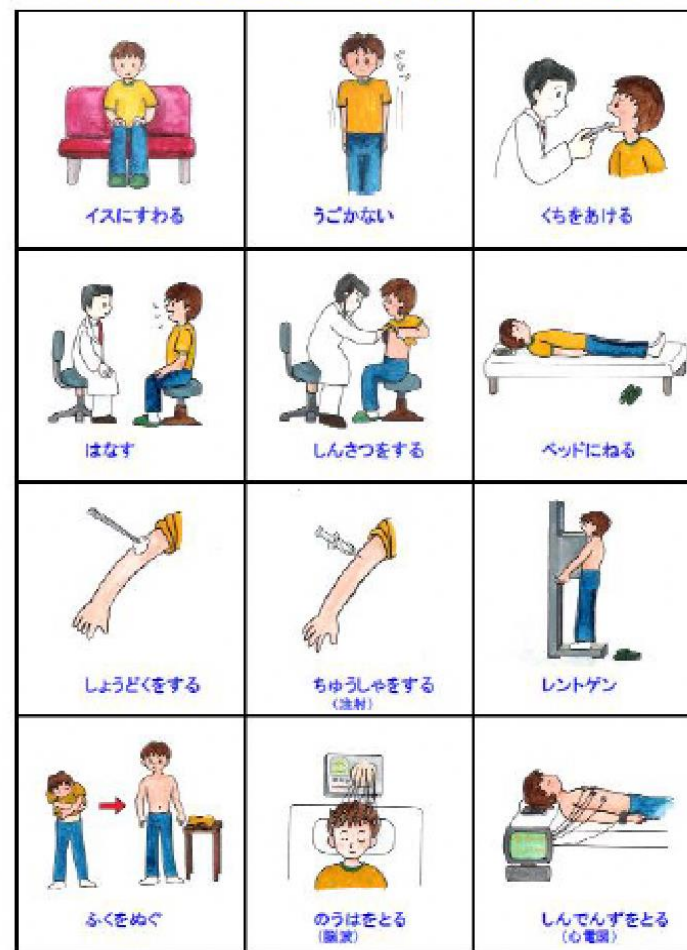
- ✓ 親の会が作成し、医師会を通して市内の病院・診療所の待合室に掲示
- 待合室の他の患者さんに、待つことが苦手な人がいることを知ってもらうために作成

「医療セミナー」開催

- ✓ 親の会・医師会のリーダーシップのもと、障害のある患者側、そして医師側の苦労・悩みを双方に意見交換

(大屋 滋. 2009)

コミュニケーションボード



第12回 発達障害地域包括支援研修(精神保健・精神医療)より